

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：32694

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01578

研究課題名(和文) 再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯

研究課題名(英文) Domestic and Care Workers in Japan in the Age of International Gendered Division of Reproductive Labor: A Genealogy of Solidarity

研究代表者

定松 文 (Sadamatsu, Aya)

恵泉女学園大学・人間社会学部・教授

研究者番号：40282892

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,960,000円

研究成果の概要(和文)：家事・ケア労働者は名称および資格によって分けられており、家事使用人は労働基準法の適用除外であり公的資料において包括的に把握されにくい。移住家事・ケア労働者も在留資格や出身国によって個別に把握されてきた。現在、活動による在留資格で介護・家事労働者が受け入れられているが、その受入れの移住システムにおいて仲介機関による搾取の問題や同一の労働での異なる賃金など問題が多い。

国内外の聞き取り調査およびオンラインでの多言語質問紙調査(123件の有効回答)によれば、移住女性が多く担い、在留資格は身分による在留資格が4割近くいることから、移住女性が日本における社会的再生産の重要な主体であることが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

個別に研究されてきた日本における家事・ケア労働に関して、同一の労働に従事する労働者・家事労働史の視点から総合的にとらえ、国内における性別分業と労働の不安定性が、現在、階層、エスニシティ、ジェンダーによるさらなる差異化と分断を伴いながらグローバルに展開され、分断されつつも家事・ケア労働者による連帯や主体的な選択が社会学的意味での制度を変容させていく様相を実証的にとらえた。

研究期間中に特定技能・介護の在留資格ができたが、複数の介護の在留資格による労働条件の差異、移住システムにおける仲介業者の問題国家戦略特区の家事労働者の解雇・ハラスメント事件からも人権問題などが顕在化したことを指摘した。

研究成果の概要(英文)： Domestic and care workers are divided by category and status, and domestic servants are exempt from the Labor Standards Law, making it difficult to comprehensively identify them in official data. Migrant domestic/care workers have also been separately identified according to their status of residence and country of origin. Currently, care and domestic workers are accepted with activity-based residency status, but there are many problems in the migration system, such as exploitation by intermediaries and different wages for the same work.

According to interviews in Japan and abroad and an online multilingual questionnaire survey (123 valid responses), many migrant women work and nearly 40% of them have status-based residency status. This confirms that migrant women are important actors in social reproduction in Japan.

研究分野：社会学

キーワード：国際社会学 ジェンダー 移民論 移住女性 ケア労働 介護労働 家事労働 日本

1. 研究開始当初の背景

日本における移住家事・介護労働者は在留資格・出身国によって分けられて研究してきたため、全体としてどのような移住者によって日本の家事・介護労働が担われているのか包括的に捉えることができなかった。

国際労働機関の通称「家事労働者条約」(C-189)において、家事労働は「家庭において又は家庭のために行われる労働」であり、家事労働者を「雇用関係の下において家事労働に従事する者」、「随時又は散発的にのみ家事労働を行う者及び職業としてではなく家事労働を行う者は、家事労働者でない」と定義している。日本においては、保育士やベビーシッターおよび、高齢社会が進展する中での介護労働の専門職化があり、家事、育児、介護を分けてとらえる傾向にあるが、家庭の中での労働実態として同時に行われている傾向があること、またしばしば不払いの感情労働や介助も含むことから、本研究では、家事・育児・介護を含む家事・ケア労働という用語を使用し、本研究における対象のカテゴリーを定めた。

この定義において、日本の家事・ケア労働の先行研究は以下の4つに大別される。第一に、明治から昭和にかけての女中と呼ばれた女性労働史、文化史である。奥田暁子の「女中の歴史」(1995)、小泉和子編『<女中>がいた昭和』(2012)、坂井博美の『「家庭」のなかの階級』(2008)、「女中雇用と近代家族・女性運動--1930年代日本を対象として」(2010)等、1950年代までを中心とした住込み家事労働者の労働環境と使用者としての家族との関係が中心になっている。第二に、1962年ホームヘルプサービス事業の前身である家庭奉仕員派遣事業以降、配偶者と離別・死別した中高年女性の失業対策として始まった「家庭奉仕員」、1970年代後半から高齢化とともに増加した主に高齢者介護を行う「派出婦」「家政婦」「ホームヘルパー」、さらに介護の社会化といわれた1999年の介護保険法以降の介護福祉士を含めたケア労働者についての研究である。この分野の研究の蓄積は厚く、簡潔に要約することはできないが、山根純佳が『なぜ女性はケア労働をするのか』(2010)で指摘したように、家庭と労働市場において性別分業再生産が構築・拡大されていた一方で、介護の社会化の中で労働をとらえた女性の主体性の獲得や交渉の能力の獲得といった女性ケア労働者の変化もあったことは確かである。第三に、移住女性による家事・ケア労働の分野において、2008年の経済連携協定(EPA)による看護師・介護福祉士候補生の受入れ以降の再生産領域の国際分業に関する研究である。サスキア・サッセンのグローバル経済における「生き残りの女性化(feminization of survivals)」、カースルズとミラーによる「移民の女性化(feminization of migrants)」など、先進国の女性の労働力化および移民の女性化の関連が特にアメリカの社会科学分野で議論されていた。ホックシールド(Hochschild)やパレニャス(Parreñas)は「グローバル・ケア・チェーン」「再生産労働の国際分業」と、グローバル・ノースの経済発展がグローバル・サウスでの再生産労働の負担によって可能になっていることを指摘した。そして、日本においては、伊藤るり・足立真理子『国際移動と<連鎖するジェンダー>再生産領域のグローバル化』(2008)によって、日本を含むアジアの再生産労働の国際分業の様相を、階層・エスニシティ・ジェンダーによって差別化されながら進展している局面が提起され、その後、佐藤誠編『越境するケア労働 日本・アジア・アフリカ』(2010)、塚田典子『介護現場の外国人労働者 日本のケア現場はどう変わるのか』(2010)、落合恵美子・赤枝香奈子『アジア女性と親密性の労働』(2012)、安里和晃編『国際移動と親密圏 ケア・結婚・セックス』(2018)等、日本を含めたアジアにおける再生産労働の国際分業における移住女性ケア労働者の研究が幅広く展開されてきた。第四に、国際結婚移民による非市場での家事・ケア労働、日本人の配偶者等や定住者の在留資格での有償ケア労働などであり、EPAでの介護福祉士候補生より以前から介護市場において外国人女性が就労していたことを示している(高畑)。

以上の先行研究に示されたように、生産労働を維持・発展させるための再生産労働は必要不可欠であるにもかかわらず、直接雇用の家事・ケア労働者は労働基準法等の適用除外の対象であり、労働政策と労働社会学の分野においても重視されてこなかった。そのため、日本における家事・ケア労働についての学術的議論は、男性稼得者のいる世帯の「主婦論争」であるか、政策や市場の生成に左右され、呼称ごとの文化史や専門職の研究、移住者の場合には滞在資格・出身国ごとの事例が研究される傾向にあった。しかし、2017年からの国家戦略特区における外国人家事労働者の受入れ、技能実習制度における「介護」の新規認可など、日本の市場および準市場での家事・ケア移住労働者が増加する現在、使用者側の階層化、出身国別の労働市場の差異、そして女性に偏った雇用という傾向にみられる階層・エスニシティ・ジェンダーによる家事・ケア労働の分断が意味するところを分析するには、家事・ケア労働の内容で同一労働ととらえ、市場・準市場での雇用・労働条件と傾向そして労働者の就労動機や背景を総合的に考察する必要があると考えた。

2. 研究の目的

以上の背景から、本研究は個別に研究されてきた日本における移住者による家事・ケア労働に関して、同一の労働に従事する労働者・家事労働史の視点から総合的にとらえ、国内における性別分業と労働の不安定性が、現在、階層・エスニシティ・ジェンダーによるさらなる差異化と分

断を伴いながらグローバルに展開され、分断されつつも家事・ケア労働者による連帯や主体的な選択が社会学的意味での制度を変容させていく様相を実証的にとらえることを目的としている。

大きく以下の2点を明らかにする。第一に、家事・ケア労働者を呼称、職業カテゴリー、資格、在留資格によってではなく、家事・ケア労働の労働内容によってとらえ、不安定で低賃金の労働と位置付けられているマクロ的な日本の再生産労働の構造、ジェンダーやエスニシティによって人を差別化する支配のテクノロジー、レトリックと思考について連続性、共通性、そして再構造化の析出を試みる(課題)。第二に、家事・ケア労働史に関して連続性をもって把握し、事業所に雇用される以外の労働者が増加する現代における労働者性の問題を検討しつつ、企業包摂型あるいは企業対抗型の労働運動史とは異なる労働者の姿を提示することが可能である点である(課題)。

3. 研究の方法

課題 歴史的に見た家事・ケア労働者の運動と連帯の調査と、課題 現在の家事・ケア労働市場・準市場における労働者および経験者の労働実践と就業選択の理由に関する調査から構成される。

(1)課題 に関して、アメリカ占領軍家族住宅(Dependent House)約2万戸で働いていた4万人以上のハウスマイド、『あさつゆ』『麦の会』などの「女中」による会報誌や集まり、労働組合の労働者供給事業(労供)として家事・ケア労働をおこなう家事・ケア労働、通称「介護・家政婦ユニオン」に関しては、Covid-19の影響もあったため、文献資料を中心にまとめる。「永住」「定住」「日本人の配偶者等」の就労に制限のない在留資格の移住者による家事・ケア労働について、日本人の高齢者に対する市場・準市場での労働だけでなく、高齢化する移住者への家事・ケアの支援も含め、大阪、東京、神奈川等の集住地区において聞き取り調査を行う。

(2)課題 に関して、家事・ケア労働市場/準市場における労働者および経験者の選択の調査として、出身国と在留資格にこだわらず、オンライン質問紙を用いた、多言語でのインターネットを行う。Covid-19の影響で、対面で調査票を配布することは困難であったため、オンラインという方法を用い、回答の信頼度の問題から研究分担者および他の研究者や支援者の協力による機縁式での配布とした。言語は日本における移住者の国籍から、日本語、やさしい日本語、英語、タガログ語、中文(簡体字)、中文(繁体字)、ハングル、インドネシア語、ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語の10ヶ語で作成した。

4. 研究成果

(1)歴史的に見た家事・ケア労働者の運動と連帯の調査に関して、伊藤るり編著『家事労働者の国際社会学』(人文書院、2020年)の中で、日本の家事労働者が労働基準法の適用除外対象であること、アメリカ占領軍家族住宅(Dependent House)約2万戸で働いていた4万人以上のハウスマイド、『あさつゆ』『麦の会』などの「女中」による会報誌や集まり、1949年からの「田園調布派出看護婦家政婦労働組合」など家事労働者による主体的な連帯や社会運動があったことをまとめた。また、国際社会学の分野で家事労働者の連帯や組織化について、第93回日本社会学会大会(オンライン)のテーマセッション(14)「移住家事労働者研究の現在と未来」(2020年10月31日(土)14:00-18:30)、お茶の水女子大学IGSセミナー「『家事労働の国際社会学』を読む」(2020年11月15日(日)13:30-17:30)において成果を公表しつつ、議論を行った。前者ではアフリカやラテンアメリカなど同書では扱われていない地域における動向の紹介など、5人の報告者とともに研究領域のさらなる発展を目指した討論を行い、インタセクショナルリティの問題、階級とエスニシティ、先住民と植民地問題、ケアの文化言説など、各国・地域的特徴だけでなく社会学的観点から重要な問題提起がなされた。後者では、各章の執筆者の報告に対してフェミニスト経済学者足立真理子氏から労働と資本の顕在する磁場として家事労働の研究の重要性の確認と労働者性を考えるうえで交換価値になりえない余白はまだ残存するのかという問いが投げかけられた。フェミニスト思想研究家の伊田久美子から労働概念のジェンダー化として家事労働研究の意義、2重負担、スティグマ性のある労働としての家事労働の側面が指摘され、家事労働を排除する労働概念とはなにか改めて議論の喚起がなされた。

国内・国外調査において2019年4月に施行された「特定技能」での介護をめぐる募集・送り出し状況について、他の在留資格での介護労働への影響を考察するため、調査を行った。フィリピン、ベトナム(2019年8-9月)、インドネシア(2020年2月)における調査から、特定技能での送り出しの準備をする送り出し機関が存在する一方で、2017年から始まった技能実習制度における介護分野が先行しており、その利権構造等によって特定技能の送り出しが始まりにくいことが判明し、詳細を国際シンポジウムで発表し、論文にまとめた。国内調査においては、「永住」「定住」「日本人の配偶者等」の就労に制限のない在留資格の移住者による家事・ケア労働と「介護」労働の在留資格での就労者を完全に分離して調査することは現実的ではなく、多様な在留資格の方が働いていることを想定して、神奈川、大阪・京都での「在日韓国・朝鮮」のディケアサービス、介護施設への聞き取り調査、東海地区・東京・神奈川等のインドネシア人コミュニティ、東京のフィリピン人家事労働者に対して聞き取り調査を行った。また、神奈川県介護専門学校の留学生に関する聞き取り調査、福岡での支援団体へ聞き取り調査を行い、改めて多様な在留資格で、多様な出身国の人々が介

護労働を担っていることが確認された。そこから、以下4点が明らかになった。現在日本において介護労働者は不足しており、多様な手段を用いても国外から労働者を探し、育成しなければならない状況、在留資格等によって賃金や待遇に差があること、移住者の高齢期には移住者の文化的社会的背景に配慮した介護が必要なこと、在留資格を作りながら受け入れるよりも現在日本に在住する移住者から養成し、安定した賃金と労働条件で雇用したほうがより安定的に介護現場の労働者が確保できるのではないかということである。

(2)オンラインのフォームに回答する方式で、機縁式で回答を募り、123件の有効回答が得られた。38の設問で労働内容、労働場所、賃金や保険、労働における問題点、Covid-19による影響、仕送りなどを聞いている。回答者の91.3%は女性であり、国籍はフィリピン29%、ベトナム20%、インドネシア13%、ペルー12%であるが、日本国籍取得者や帰国者も含んでいる。在留資格は一般永住25.2%、定住12.2%、技能実習10.4%、EPA9.6%と、身分による在留資格の回答者が多い。労働の場は介護施設等が67%、個人家庭が33%と3分の2が施設での介護労働のため、1週間の労働時間も平均40時間が最頻値になっている。この調査から介護分野で労働者が不足しており、4つの在留資格で受入れを促進しているが、身分による在留資格の介護労働者も地域社会の構成員として多数働いており、社会的再生産の重要な主体であることが確認された。また、介護の事業主や運営者もあり、介護の勉強をして資格を取り、安定した収入を得たいと考えている人もいることがうかがえた。調査結果に関しては、2023年度に国際ジェンダー学会および調査協力者に報告したのち、インターネット上で公表予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 定松文・小川玲子	4. 巻 12
2. 論文標題 在留資格「特定技能」の制度化の実態：介護分野に関するフィリピン・ベトナム調査からの発見と考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 移民政策研究	6. 最初と最後の頁 28-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 定松文	4. 巻 22
2. 論文標題 介護の日本語に関する研究の動向と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ことばと社会	6. 最初と最後の頁 111-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 定松文	4. 巻 1007
2. 論文標題 不可視化される再生産労働と「生きづらさ」 新自由主義経済における労働者の分断と再生産労働	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 21-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋史恵	4. 巻 1
2. 論文標題 これは「武漢のウイルスか」：新型コロナウイルスと「中国人」の排除をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 F visions : 世界が見えるフェミニスト情報誌	6. 最初と最後の頁 20-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ogaya, Chiho	4. 巻 242
2. 論文標題 The Rights Movement for Domestic Workers in the Philippines: Its Local and Transnational Path to Decent Work	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Care, inegalites et politiques aux Suds Revue internationale des etudes du developpement	6. 最初と最後の頁 169-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徐阿貴	4. 巻 795
2. 論文標題 図書紹介 熊本理沙著『被差別部落女性の主体性形成に関する研究』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊 部落解放	6. 最初と最後の頁 64-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徐阿貴	4. 巻 13
2. 論文標題 韓国における移住女性人権運動の生成と展開ー多文化家族政策をめぐる政府への抵抗と交渉を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 理論と動態	6. 最初と最後の頁 32-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵子	4. 巻 5
2. 論文標題 なぜジャカルタで家事労働者として働くのか インドネシアにおける経済成長と元移住家事労働者の選択	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済社会とジェンダー	6. 最初と最後の頁 28-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 巢内尚子	4. 巻 2
2. 論文標題 ベトナム人女性技能実習生と妊娠をめぐる課題：コロナ、継続する性の管理、奪われる権利	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 F visions : 世界が見えるフェミニスト情報誌	6. 最初と最後の頁 70-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 巢内尚子	4. 巻 5
2. 論文標題 移住インフラにおける債務労働とジェンダー：日本と台湾のベトナム人労働者の事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済社会とジェンダー	6. 最初と最後の頁 49-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 巢内尚子	4. 巻 23
2. 論文標題 <書評> Jane Pillinger and Nora Wintour "Collective Bargaining and Gender Equality"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ジェンダー研究	6. 最初と最後の頁 265-267
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 巢内尚子	4. 巻 210
2. 論文標題 30万人計画のひずみ、新型コロナで留学生が困窮	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Mネット	6. 最初と最後の頁 27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 巢内尚子	4. 巻 211
2. 論文標題 外国人技能実習生と重層的な困難 ベトナム人の事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Mネット	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoko Sunai	4. 巻 2020
2. 論文標題 Runaway and Resistance against and within Migration Infrastructures: The cases of Vietnamese migrant workers in Japan and Taiwan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the 13th Next Generation Global Workshop	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小ヶ谷千穂	4. 巻 Vol.49-13
2. 論文標題 移住家事労働者から考える、「らしさ」の境界線	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 41-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徐阿貴	4. 巻 24
2. 論文標題 書評 熊本理沙著『被差別部落女性の主体性形成に関する研究』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ジェンダー研究	6. 最初と最後の頁 219-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徐阿貴	4. 巻 184
2. 論文標題 福岡・西戸崎の在日朝鮮人 社宅型のエスニック・コミュニティ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 リベラシオン	6. 最初と最後の頁 22-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵子	4. 巻 19
2. 論文標題 COVID-19パンデミック下のインドネシアにおける家事労働者への社会経済的影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際ジェンダー学会誌	6. 最初と最後の頁 32-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 巢内尚子	4. 巻 23
2. 論文標題 聞き取り活動による社会・文化的仲介 : カトリック・コミュニティのベトナム人技能実習生支援から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ことばと社会	6. 最初と最後の頁 275-281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 巢内尚子	4. 巻 56(9)
2. 論文標題 インターネットと移住女性と対抗的な公共圏 : ベトナム人カトリック・コミュニティによる妊娠女性の支援を事例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本の科学者	6. 最初と最後の頁 362-368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 定松文	4. 巻 952
2. 論文標題 グローバルなケアの《分断》 移住女性の犠牲と先進国共働き家庭	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 115-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵子	4. 巻 50(2)
2. 論文標題 有償家事労働の位相から「家政」を考える	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 79-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 定松文	4. 巻 24
2. 論文標題 家事労働者の受け入れの問題点 国際的な比較の視点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 別冊 環 開かれた移民社会へ	6. 最初と最後の頁 94-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 定松文	4. 巻 729
2. 論文標題 「人手不足」と外国人労働者：介護準市場の労働問題と移住労働者	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6. 最初と最後の頁 29-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15002/00022346	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤るり	4. 巻 279
2. 論文標題 移民政策への『人間の安全保障』アプローチと移住家事労働	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5363/tits.24.6_12	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大橋史恵	4. 巻 4
2. 論文標題 大娘たちとくともに歩む>という<闘い> 中国山西省における日本軍戦時性暴力問題をめぐる運動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ジェンダー研究	6. 最初と最後の頁 81-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恵子	4. 巻 279
2. 論文標題 インドネシア人移住・家事労働者を取り巻く「非・安全」な制度への取り組み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5363/tits.24.6_20	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件(うち招待講演 8件/うち国際学会 7件)

1. 発表者名 伊藤るり、定松文、小ヶ谷千穂、平野恵子、大橋史恵、巢内尚子
2. 発表標題 『家事労働の国際社会学』を読む
3. 学会等名 お茶の水女子大学 IGSセミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 定松文
2. 発表標題 不可視化される再生産労働と「生きづらさ」 新自由主義経済における労働者の分断と再生産労働
3. 学会等名 歴史学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ito, Ruri
2. 発表標題 Le travail reproductif a la charniere de deux types de classes sociales: Le recit d'une travailleuse domestique philippine ou d'une 'voyageuse'
3. 学会等名 Colloque autour des travaux d'Helena Hirata, Travail, genre et subjectivites (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 徐阿貴
2. 発表標題 在日朝鮮人の民族保育から考えるインターセクショナリティ
3. 学会等名 国際ジェンダー学会2020年大会シンポジウム1 「ジェンダーと交差性(インターセクショナリティー)から 新しい連帯を考える」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 徐阿貴
2. 発表標題 在日コリアン女性のケア労働 外国人・福祉政策と社会的再生産の接点
3. 学会等名 日本社会学会2020年大会 テーマセッション14 「移住家事労働者研究の現在と未来 『家事労働の国際社会学』を議論する」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naoko Sunai
2. 発表標題 Runaway and Resistance against and within Migration Infrastructures: The cases of Vietnamese women in Japan and Taiwan
3. 学会等名 The 13th Next-Generation Global Workshop: New Risks and Resilience in Asian Societies and the World (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 巢内尚子
2. 発表標題 外国人労働者問題について
3. 学会等名 農林中央金庫「環境人権研修会」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Aya Sadamatsu
2. 発表標題 Gender Norms and Positionality in Japan
3. 学会等名 Association for Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 定松文
2. 発表標題 「旧ソ連、東欧のジェンダーの諸相」現在編へのコメント
3. 学会等名 ロシア・東欧学会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大橋史恵
2. 発表標題 黄金興姐妹關係：戦後香港家庭工の經濟能動性
3. 学会等名 中国当代史研究中心第十届中国当代史研究工作坊（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Seo, Akwi
2. 発表標題 Multiplicity of oppressions and resistance: A life story of Korean woman in Japan
3. 学会等名 International Conference Social Minority and Human Rights, Institute for Human Rights and Social Development, Gyeongsang National University, Korea（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 徐阿貴
2. 発表標題 社会を映し出す鏡 在日朝鮮人女性とジェンダー
3. 学会等名 PP21ふくおか自由学校（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 巢内尚子
2. 発表標題 下位の対抗的な公共圏とベトナム人妊娠女性の支援：宗教コミュニティ・ネット・エスニックな紐帯に着目して
3. 学会等名 日本社会学理論学会第16回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 巢内尚子
2. 発表標題 在留資格の非正規化と対抗的な公共圏：日本と台湾のベトナム人移住女性の事例から
3. 学会等名 日本フェミニスト経済学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 巢内尚子
2. 発表標題 アジア地域における搾取のインフラと移住の軌跡 ジェンダーとディスエンパワメント機能に着目して
3. 学会等名 第94回日本社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 定松文
2. 発表標題 家事の外部化と労働の商品化 特区の「外国人」「女性」家事労働者雇用 から考える
3. 学会等名 第92回日本社会学会大会、シンポジウム（1）女性活躍時代のシャドウワーク（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 定松文
2. 発表標題 介護労働市場の危機と移住産業 在留資格の多元化と利権構造
3. 学会等名 国際社会学研究会「国際シンポジウム 後発的移民受入国の国際比較 21世紀の移民受入れ政策をめぐるスペインの経験と日本のこれから」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤るり
2. 発表標題 国際労働移動をジェンダー視点で読む gender and migration領域の生成と展開
3. 学会等名 北海道大学大学院文学研究院 応用倫理・応用哲学研究教育センター公開シンポジウム「国際労働移動とジェンダー」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ruri ITO
2. 発表標題 Le travail reproductif a la charniere de deux types de classes sociales: Le recit d'une travailleuse domestique philippine ou d'une voyageuse
3. 学会等名 Site Pouchet du CNRS, Colloque autour des travaux d' Helena Hirata, "Travail, genre et subjectivites. De l' usine au travail du care" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Fumie OHASHI
2. 発表標題 Situated in Dislocation: Rural Migrant Domestic Workers' Mooring Strategies in Urban China
3. 学会等名 International Association for Feminist Economics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野恵子
2. 発表標題 インドネシアの移住・家事労働者 出稼ぎ、都市化、組織化
3. 学会等名 日本フェミニスト経済学会2019年度共通論題
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hirano Keiko
2. 発表標題 Returning Home: When Indonesian Migrant Domestic Workers Become Local Domestic Workers
3. 学会等名 SEASIA Biennial Conference 2019 at Academia Sinica
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Shirlena Huang , Kanchana N. Ruwanpura (eds.), Ito, Ruri, and Mie Morikawa	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Edward Elgar	5. 総ページ数 438
3. 書名 Handbook on Gender in Asia (International Handbooks on Gender)	

1. 著者名 田中宏, 師岡康子, 巢内尚子, 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 外国人入権法連絡会	5. 総ページ数 79
3. 書名 日本における外国人・民族的マイノリティ人権白書2020年版	

1. 著者名 鈴木江理子, 巢内尚子他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 316
3. 書名 アンダーコロナの移民たち	

1. 著者名 安藤丈将、アンジェロ・イシ、中西祐子、菊地英明、千田有紀、松井隆志、大橋史恵、りむよんみ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 北樹出版	5. 総ページ数 135
3. 書名 グローバリゼーションと変わりゆく社会	

1. 著者名 伊藤 るり、定松 文、小ヶ谷 千穂、平野 恵子、大橋 史恵、巢内 尚子、中力えり、宮崎理枝、篠崎香子、小井土彰宏、森千香子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 400
3. 書名 家事労働の国際社会学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小ヶ谷 千穂 (Ogaya Chiho) (00401688)	フェリス女学院大学・文学部・教授 (32711)	
研究分担者	大橋 史恵 (Ohashi Fumie) (10570971)	お茶の水女子大学・ジェンダー研究所・准教授 (12611)	
研究分担者	平野 恵子 (Hirano keiko) (50615135)	横浜国立大学・大学院都市イノベーション研究院・准教授 (12701)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊藤 るり (Ito Ruri) (80184703)	津田塾大学・総合政策学部・教授 (32642)	
研究分担者	徐 阿貴 (Seo Akwi) (90447566)	福岡女子大学・国際文理学部・准教授 (27103)	
研究分担者	巢内 尚子 (Sunai Naoko) (80912758)	東京学芸大学・教育学部・研究員 (12604)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関